

根城の力、再発見

～子どもたちのために手をつなごう～



八戸市根城中学校区学校支援地域本部 担当者：佐々木 禎／根城中学校 コーディネーター：青井 明子・成田 千晴

学校や地域の概要

根城中学校は、特別支援学級を含めて18学級、生徒数506名です。学区内には3小学校があり、市教委の小中ジョイントスクール推進事業により小中間の円滑な接続を図っています。また、学区内の各種団体代表が出席して月1回行われる情報交換会を通して、地域との連携強化も進めています。今年度からは市教委の推進する「地域密着型教育モデル校」の指定を受け、地域住民や保護者の方々の教育活動への参画と支援によって、地域ぐるみの学校づくりをめざしています。

わが校のボランティア活動

- ・図書室の装飾、本の登録、整理、廃棄
- ・土曜学習会の講師及び授業補助
- ・校舎内壁面塗装

コーディネートの実際

- ・学期に1回、保護者にボランティア通信を配付し情報提供に努めています。
- ・保護者への案内は、目にとまりやすいようにカラー印刷で配付しています。
- ・学校、公民館の文化祭でボランティアの活動紹介とボランティア募集広告展示、地域行事への参加など、地域の方へ本事業内容周知に努めています。
- ・ボランティアの方と積極的に話し、活動しやすい環境作りに努めています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターが学校や地域の実情を熟知したうえで、先を見越して人的物的調整を図ってくださるので、学校運営上とても助けられています。

このことを多くの教職員に周知し、連携を強化していきたいと思います。



わが校の主な活動

【1】図書ボランティア

昨年度まで活動していた図書協力員を中心に10名程のボランティアが、毎月2・3回（一人につき）当番の日を決め、古い本の廃棄、新刊の登録、背ラベルの貼替え、コーティング、本の並べ替え、図書室内の装飾などをしてくださっています。



【2】環境ボランティア

昨年度行った環境整備ボランティア養成講座参加者が中心となり、北校舎1階～3階の壁面とトイレの扉、体育館の扉、玄関前、職員室前、2階中央廊下の壁面塗装、備品の補修をしてくださいました。



【3】学習ボランティア

毎週土曜日の午前中に行われる「土曜学習会」で自学している生徒たちへの指導と、理科や数学の授業補助をしてくださっています。



得られた成果

- ・図書室が明るく使いやすくなり、利用する生徒が増えました。
- ・自分から進んで自学ができる生徒が増えてきています。
- ・ボランティアにあいさつしたり声をかけてくる生徒たちが増えました。
- ・校舎内壁面が白くなり、校内が明るくなりました。

今後の課題と展望

- ・ボランティアがなかなか増えないので、継続して募集していきたいと考えています。
- ・本部事業終了後の活動を継続させるため主導的人材の育成が必要です。
- ・授業や行事におけるボランティア活動には教職員からの要請がなくてはならないので、教職員の意識改革も必要だと考えます。



地域の力を学校へ

～図書ボランティア、図ボラ（ズボラ）誕生



五戸町五戸小学校支援地域本部 担当者：石ヶ森謹夫／五戸小学校 コーディネーター：金澤 和子・川岸 祥子・日向 幸子

学校や地域の概要

五戸町は八戸市と十和田市に隣接しており、平成16年には倉石村と合併、農業を中心産業とした、人口20,000人弱の町です。

五戸小学校は、その中心部に位置し、明治6年に創立。「自ら学ぶ子」、「明るく思いやりのある子」、「元気でたくましい子」を教育目標に、全校生徒数445人、町内では最も規模の大きい小学校です。

わが校のボランティア活動

五戸小学校支援地域本部では、今年度からこの事業を始めました。五戸小学校では、以前より各学年毎にPTAによる保健生活指導、環境整備などの委員会活動を行っています。当事業では、「既存のもの以外で学校に必要なことや教職員の細かい要望に添えるような内容」という方針で活動しています。

これまでに、読み聞かせボランティア、習字指導補助、図書修理ボランティア、町探検引率、昔の遊び指導ボランティアを実施しています。

コーディネートの実際

2学期から始めたばかりで、教職員、コーディネーター共に手探りの状態ですが、これまでに図書ボランティアの登録、習字指導、町探検引率、親子レク補助など、徐々にコーディネートする場面も増えつつあります。

コーディネーターはPTA会員からの2名と地域の方1名で活動していますが、学校関係以外の方に加わっていただいているおかげで、ボランティアの人材探しの幅が広がっています。

担当者・コーディネーターから一言

普段、忙しい教職員との細かいやり取りが困難なので、連絡票を使うなど、なるべく学校側に負担をかけない方法で進めていきたいと考えています。

また、学年便り等で、ボランティアの方を募集したり、活動の様子を校内に掲示し、学校と地域に事業内容を広く理解してもらえるように工夫していきたいと考えています。



わが校の主な活動

◇図書室整備ボランティア始動

五戸小学校地域本部に、五戸小学校の図書室整備ボランティアの依頼がありました。実際に図書室にしてみると、本も相当に古い物が多く、背表紙や表紙が無いもの、手に取るとバラバラになってしまうもの、痛んでいる本が多く見受けられました。図書の整備は、子どもたちにとって、本を好きになり、また、本を大事にする心を育む上で、とても大切なことです。



まずは、本の修理方法を学ぶ必要があるということで、10月6日に第1回目の図書ボランティア講習会を開催しました。参加者はPTAの方を中心に10名のボランティアの方が参加しました。講師には、五戸町立図書館の司書の方を招いて、本の性質・取り扱い方・修理方法の概要といった内容で指導していただきました。特に、本の性質・取り扱い方については、初めて耳にする内容も多く、ボランティアの方々も驚きながら聞いていました。

いざ、本の修理方法になると、ボランティアの皆さんが、とても楽しそうに取り組んでいました。そして、だんだん皆さんの会話も弾み、「図書室を飾りつけしてみようか」など、子どもたちのために図書室を良くしていくための様々なアイデアが出てきていたので、これからの活動に大きな期待を寄せています。



五戸小学校では、当事業を2学期から始めたため、学校側・コーディネーター共に、まだ手探りの状態です。しかし、ゆっくりとですが、確実に五戸小学校の学校支援ボランティアの形ができてきています。

得られた成果

- これまでに実施したボランティア活動の中で、保護者や地域の方々が実際に学校で活動することにより、学校内の実情を理解していく足がかりになっています。
- これまでも、学校単独ではできないことは保護者の協力を得てきましたが、地域住民の力も地域の教育力を高めるものとして、学校側にも地域住民側にも浸透しつつあります。

今後の課題と展望

当事業を始めて間もないのですが、徐々に学校・保護者・地域に互いに協力していく仕組みができつつあります。さらに活動を活発にするためには、学校側からの要望が第一の事業であるため、教職員への当事業に対するさらなる理解と、依頼しやすい環境づくりをしていく必要があると思っています。



図書から始まる地域活動！

～地域とつながる南部中学校の活動～



南部町南部地区学校支援地域本部 担当者:中村 貞雄／南部中学校 コーディネーター:本澤 博路

学校や地域の概要

昭和36年、2校の統合により創立した南部中学校は、「文武両道」をモットーに掲げています。平成14年には、約40年の歴史を刻んだ校舎（平良ヶ崎城址）から現在の校舎へと学舎を移し、「新生南部中」を目指し全校生徒が意欲的に勉学やスポーツに励んでいます。

わが校のボランティア活動

・ギターの指導

2年生と3年生の選択音楽で、地域の方が講師となりギターの指導が行われました。

・図書の整理

2週に1回、図書室を開放する昼休みに、ボランティア2名で本の整理を行っています。

コーディネートの実際

- ・学校の要望を受けたり、いろいろな情報を収集しています。
- ・依頼に応じてボランティアを募集します。お知らせのチラシを配布しますが、今のところ主に声かけで集めています。
- ・担当の先生と打合せをします。
- ・ボランティア活動をします。
- ・終わった後、応接室でお茶を飲みながら様子を話し合います。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：学校の趣旨や学校支援ボランティア活動に対する理解に時間はかかりましたが、学校側もボランティア側も理解していただき、ボランティア活動もいい環境でできるようになりました。

担当者：南部中学校では今年度から新たに事業を実施しましたが、コーディネーターが昨年から学校へ働きかけを行っていたので、問題なく円滑に事業が行われています。今後は、さらなる事業周知の徹底を図り、メニューを拡大する工夫が求められると考えます。学校からの依頼にスムーズに応えられるように、地域のボランティアの確保も重要課題です。図書の整理を皮切りに多くの活動が行なわれることを期待します。



わが校の主な活動

【1】ギターの指導

選択音楽の時間にゲストティーチャー（地域のギター愛好家）を招き、ギターの指導を受けました。子どもたちは最初、ギターの音を出すことができず苦心していましたが、講師の適切な指導により、やがて爪弾くことができました。普段、学校では体験することのないギターの演奏（弾き語り）ですが、子どもたちは目を輝かせて取り組んでいました。指導にあたった講師は、子どもたちとの交流が楽しくて、この時間が生活の楽しみになっていたと話しています。学校は、生徒たちの希望にかなう学習内容となったので、良かったとのことでした。



【2】図書の整理

南部中学校は数年前に新校舎となった経緯もあり、蔵書数はまだ多くはありませんが読書活動に力を入れています。図書室が昼休みに一番利用されるということで、その時間帯に地域のボランティアが入り、子どもたちと交流を図りながら本の整理などの活動をしています。お互いに楽しんで活動をしているようです。



得られた成果

成果として感じられるものはまだ多くはありませんが、地域の方々が学校に入ってくるといことで、生徒たちの緊張感や新鮮さが感じられるようになりました。また、子どもたちがあいさつを自然にできるようになりました。さらに、ボランティアの方々の交流が図られました。

今後の課題と展望

ボランティアの質をあげ、学校と地域が意欲を持って、子どもたちを育む「つながる」ボランティア活動をコーディネートしていきたいと思っています。また、地域にもっともっと参加を呼びかけ、中学校応援隊のような組織づくりまで活動を広げていきたいと考えています。



三八地区
南部町

子どもと大人のすてきな交流！

～地域にありがとう南部小学校の取組～



南部町南部地区学校支援地域本部 担当者：中村 貞雄／南部小学校 コーディネーター：澤村 義勝

学校や地域の概要

南部小学校は平成11年4月、平良崎小と相内小が統合して生まれた新しい学校です。平成16年度より2学期制をとっており、この特色を生かすためいろいろな取組を行っています。秋休みを設定し、この期間に行われる各地区の神社のお祭りに積極的に参加し、地域の人々との交流を深めています。

わが校のボランティア活動

- ・よさこいソーランの指導が行われました。
- ・校地の草刈り（早朝親子奉仕作業）が行われました。

コーディネートの実際

- ・学校からの依頼に基づき、必要事項を確認のうえ、ボランティアを確保して事業を実施しています。
- ・日時、場所、必要物品などを聞き、お互いの役割分担を決めています。
- ・ゲストティーチャーやボランティアの代表の方と綿密な打合せを行い、活動を行なっています。
- ・活動が終わった後反省会をしました。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：先生方は地域のことがよく分からない様子なので、今後先生方と話す機会を多く持ち、コミュニケーションを取りたいと思います。

担当者：依頼をうまく聞き出すための方策が必要だと思います。先生方とのコミュニケーションをとるための工夫（昼休みの時間帯、単純作業をしている時の雑談など）が必要と考えます。コーディネーターが一人だとどうしてもかかる負担が大きいため複数人（2～3人）でチームを組み、活動することが望まれるところだと感じています。また、情報を共有するための掲示板の設置を早期に行わなければなりません。コーディネーターの居場所を確保することも大事です。これからやらなければならないことだらけですが、未来の姿を思いながら一つ一つ解決しながら地域にあった活動を見つけ出そうと思います。



わが校の主な活動

【1】よさこいソーラン

5月18日、25日、4～6年生、振り付けは地域の方に学び、歌手の坂本サトルさんが南部小のために作曲した「世界は僕らを待っている」に合わせて踊りました。1～3年生は「よっちょれ」に挑戦しました。

8月28日、なんぶサマーフェスティバルで坂本サトルさんの生演奏に合わせて5・6年生24名が踊りました。

坂本サトルさんは南部町出身で地元の小学校に深く関わりのある活動をされています。

南部小では子どもたちの体力づくりのため、地域との交流を図るため、よさこいソーランに取り組んでいます。



【2】親子奉仕作業

例年、PTAで行われている奉仕作業ですが、今年は、地域にも呼びかけて行いました。仕事の都合などでPTAの参加者が減っている中、地域の方の参加は頼もしいかぎりです。今後も協力しあって行われることが期待されます。作業終了後の参加者の顔はすがすがしい笑顔に包まれていました。



得られた成果

たくさんの観客のいる舞台の上で、心を一つにし、堂々と踊ることができ、よさこいソーランの持つ魅力を感じることができました。奉仕作業については多くの方の協力を得ることができました。参加者からも良かったとの声がありました。

今後の課題と展望

学校からの要望にしっかりと応えられるように、スムーズに事業が行われるように体制を作っていきたいと考えています。そのためには、地域の中に入り込み、多くの人材の発掘を行うとともに、声がけを常に心がけ多くの方にボランティアを楽しんでもらえるよう活動していきたいと思います。



ふるさとをキーワードに体験“楽”習！

～歴史がかおる向小学校の取組～



南部町南部地区学校支援地域本部 担当者：中村 貞雄／向小学校 コーディネーター：森田 雅彦

学校や地域の概要

向小学校は、明治9年に民家を借りて開校した後、昭和37年、昭和45年に統合が行われ、現在に至っています。平成16年4月からは二学期制をとっており、この特色を生かすため、行事の時期と内容の見直しを行い、ふるさと学習（ふるさとの山、川、人をキーワードにふるさとを知り、ふるさとに愛着をもてる教育の推進に努める）の充実を図っています。

わが校のボランティア活動

- ・読み聞かせ活動
- ・なにやどやらの指導
- ・発掘調査体験
- ・奥州街道ウォークのサポート
- ・スーパーマーケットの仕事についての講話

コーディネートの実際

学校からの依頼により事業を実施している。

- ・学校から計画書を受け取る
- ・担当の先生から内容について聞く
- ・講師の選定をして学校と調整する
- ・学校、講師、コーディネーターで打合せをする
- ・ボランティアの募集をする
- ・事業を実施する
- ・反省会（ボランティアを労う）

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：PTAの活動が盛んで、コーディネーターの活動と重複する部分がありますが、うまく調整していきたいと考えています。

担当者：向小学校は、今年度から事業実施をしました。学校からの依頼は今のところは学習支援的な依頼が多いのですが、今後は環境ボランティア的な内容も増えてくるだろうと考えています。PTAと良い関係を保ち、協力してこの事業に取り組み、円滑



に行えるようなシステムを構築する必要があると考えます。

わが校の主な活動

【1】発掘調査体験

学校の近くに聖寿寺館跡があり、発掘作業が行われています。社会教育課に見学の申込をし、発掘の体験活動を行いました。箕を片手にヘラでそうっと土を取り除いていくと土器片が顔をのぞかせます。子どもたちの驚きの声があちらこちらから聞こえました。測量に挑戦している子どもたちの姿も。6年生は日本の歴史を勉強中。中央の歴史だけではなく、地元の歴史にもつながっているのだということを理解して欲しいということでした。引率などをボランティアにお手伝いしてもらいました。



【2】奥州街道ウォーク

昔の様子をそのまま今に伝える奥州街道を歩きました。途中の史跡では、社会教育課職員の説明を聞き、昔の生活に思いをはせ、地域の歴史を学んでいました。こういう取組は、地域を理解する良い機会だと思います。野外活動のため、ボランティアに引率のお手伝いをお願いしました。



得られた成果

学校の中へ地域の方々が入っての活動は、なかなか理解されないものだろうと思っていましたが、実際にやってみると、愛好家や専門家の方の技は一見は百聞にしかずの言葉どおり、子どもたちへの説得力があり、理解度が上がったように感じました。よって教育効果は高いものと思います。また、地域の方も参加することにより、楽しいという言葉が返ってきました。学校にとっても地域にとってもプラスになるものと感じています。

今後の課題と展望

向小中学校は今年からの事業開始ですので、まだ学校支援ボランティア活動について知らない人がたくさんいます。今後はもっと多くの方に知ってもらうための周知に努めることと、学校支援に参加する人を多くし、学校サポーターの組織を立ち上げたいと思っています。



地域の誰もお父さんお母さん！

～元気をいただきます名久井小学校の取組～



南部町名川地区学校支援地域本部 担当者:中村 貞雄/名久井小学校 コーディネーター:工藤 久子

学校や地域の概要

名久井小学校は3校が大正13年に統合し、創立されました。学校の周りには、さくらんぼやりんご、ぶどう等の果樹園が広がり、近くを流れる川に沿って水田が広がっています。平成17年には県内で初めて「水に賢い子どもを育むプログラム」を授業に導入し、自然と関わりを持った活動を展開しています。

わが校のボランティア活動

新1年生が運動会で踊れるように「名川音頭」の指導、月1回の読み聞かせ活動や部活動、クラブ活動のお手伝いや草木染の体験学習などが行われています。また、名久井岳に子どもたちが安全に登山ができるように見守りのサポートも行われました。さらにアルミ缶の回収を地域に呼びかけたところ、缶の持込みや整理などにお手伝いいただきました。6年生の社会の時間には、地域の歴史研究家が子どもたちと一緒に地域の史跡を回りました。子どもたちは地域の歴史を楽しく学んでいました。来春には畑づくりのボランティアを募集する予定です。少しずつですが、この活動が活発になってきたことを実感しています。

コーディネートの実際

毎日のように部活動のお手伝いをしているため、先生方とのコミュニケーションは取れていると思います。先生方の声（依頼）をすぐに聞けるために職員室に机を置いていただきました。学校に伺って情報を得たり、学校からの依頼に対応しています。また、活動内容をボランティア新聞にまとめ、学校と地域の皆さんにお知らせしています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：コーディネーターとしての活動は、今年度の夏からですが、足手まといにならないように頑張ります。よろしくお願いいたします。

担当者：学校活動に多く参加されている方なのでコーディネーターとして適任だと考えています。これまでのノウハウを発揮するときです。学校から感謝の声が聞こえています。子どもたちもとても楽しんでいるようです。



わが校の主な活動

【1】名久井岳登山

11月17日に6年生恒例の名久井岳登山が行われました。総合学習（ふるさと学習）の一環で行われたもので、標高615mの登山に挑戦です。615mといっても、途中急な岩場があったり、鎖につかまって登らなければならなかったり難所がつづきます。肌寒い天候でしたが、皆、元気に登りきりました。名久井岳頂上には「なせばなる」の石柱があり、この言葉は子どもたちの心に刻まれたものと思います。



さて、この危険な登山、実はボランティアの方々の支えがありました。子どもたちの安全を確保しながら一緒に登りました。昔の登山を懐かしんでいました。

【2】クラブ活動のお手伝い

フラワークラブの5・6年生が草木染めに挑戦しました。ハンカチに輪ゴムを使って絞りを入れ、マリーゴールドの花で染めました。模様に工夫を凝らし、オレンジの花から緑に染まっていくきれいな模様を楽しんでいました。今日の先生は地域のおばちゃん（実は〇〇ちゃんのお母さん）。草木染めの愛好者でいろんなところで教えています。普段やったことのない授業に子どもたちは大喜びでした。



得られた成果

現在は子どもの数が減り、クラスの数も減ってきました。それに伴い、先生の数も減っています。子どもたちのために何か活動をしように思っても、安全確保の面でできないということもあるということでした。そんな時に地域の方々から協力を得ることができ、今回の登山も実施できています。

先生方もやりたいことがあったら気軽に話していただきたいと思います。

今後の課題と展望

名久井小学校はPTAの活動が盛んで、学校支援も円滑に進むものと思いますが、PTA活動とは内容が同じというわけではないので、無理なくをモットーに活動を行ないたいと思います。



お願いできますか、いいですよ！

～チカラが集まる剣吉小学校の取組～



南部町名川地区学校支援地域本部 担当者:中村 貞雄／剣吉小学校 コーディネーター：木村由起子

学校や地域の概要

明治8年に創立した剣吉小学校は、剣吉城の址にあります。剣吉の地名は坂上田村麻呂が蝦夷地へ遠征の際、学校の南に位置する神社の清水が「剣を磨くに吉（よし）」といわれたことに由来するといわれています。

また、南部七唄七踊りの発祥の地とされ、多くの児童が関わりを持っています。

わが校のボランティア活動

- ・名川音頭の踊り方教室
- ・ヒップホップダンス教室
- ・読み聞かせ活動
- ・南部七踊り教室
- ・地域の歴史を学ぶ（中世史）
- ・南部七唄七踊り鑑賞会

コーディネートの実際

- ・事業依頼を受ける
- ・講師に連絡、学校との調整、依頼状の発送
- ・講師、学校、担当にて打合せ（必要物品や当日の流れを確認）
- ・事業実施
- ・お礼状の発送

担当者・コーディネーターから一言

担当者：剣吉地区は古くからの独自の文化が栄えた街です。特に南部手踊りの発祥の地とされ、南部七唄七踊りが盛んに演じられています。学校でも南部手踊りに関したものを取り入れるなど、地域の特色の表れた事業を地域の協力を得て進めています。剣吉小学校ではゲストティチャー的な学習支援的な事業が多く行われています。今後は環境支援的な活動も多く実施されるものと思います。剣吉地区には地区のコミュニティ団体も活動しているので協力体制を取り、学校応援隊のような組織づくりが望まれるところと感じています。



わが校の主な活動

◇名川音頭の踊り方教室

運動会のアトラクションで地域の踊りとして名川音頭を踊っています。名川音頭は地域の方なら誰でも知っている踊りですが、先生方はこの踊りを知りません。よって地域の方の出番となりました。踊りにもいろいろ意味があるようで、この動作は稲穂が揺れることを表していますなど、子どもたちには好評のようでした。先生方も覚えようと一緒に踊ります。さて、運動会当日。名川音頭がかかるとちょっと異変が。いつもは地域の人は見ているだけでしたが、今年と一緒に踊りの輪の中に入ってきました。なぜだろうと聞いてみると、今までの踊りはちょっと違っていました。「私たちの知っている踊りと学校での今までの踊りはちょっと違っていたから踊れなかった。」というのです。なんとそんなことがあるのかという驚きの気持ちでした。

南部手踊り同様、地域に親しまれているものの伝承は、地域を巻き込まないと伝わらないということを感じました。



得られた成果

学校の要望により行われている事業ですが、要望に応えるために受け手の情報が多くないとうまく対応できないと感じています。地域の事情については社会教育が多くの情報を持っていますので、学校でも気軽に声をかけていただき活用していただければと思います。

学校にはいろいろな要望があるということが分かりました。これから要望は多くなるものと思います。学校としては業務に負担を感じることを嫌いますから、なるべく簡単な方法で(学校に負担がかからないように)できるシステムが必要だと思っています。

今後の課題と展望

剣吉小学校にはまだコーディネーターが配置されていません。現在は社会教育課が対応しています。早急のコーディネーターの登用を目指します。ボランティアの母体は地域のお祭りの盛り上がりなどから十分にあると感じています。



「学校さいぐべー〜」が合言葉です！

〜笑顔でありがとうの名川中学校の活動〜



南部町名川地区学校支援地域本部 担当者：中村 貞雄／名川中学校 コーディネーター：木村由紀子

学校や地域の概要

名川中学校は、平成17年に3校が統合して新しく開校しました。生徒の能力や個性を十分に開花させるための教育システム「教科センター方式」が採用されています。「町民ホール」や「ボランティアルーム」が併設され、体育館や図書室は地域開放エリアとして町民のみなさんも利用できる仕組みになっています。

学校行事には多くの地域の方々が協力、参加するなど学校と地域がともに手を取り子どもたちを育む環境があります。

わが校のボランティア活動

- ・ギター
- ・三味線
- ・琴
- ・和菓子づくり
- ・料理教室
- ・陶芸
- ・山車づくり
- ・えんぶり
- ・ラベンダーポプリづくり
- ・金魚の水槽の掃除
- ・イルミネーションの設置
- ・図書の整理
- ・掃除の見まもり
- ・体育祭での安全確保

コーディネートの実際

ギター、三味線、琴などの地元の人たちをゲストティチャーに迎えての授業は、この学校支援地域本部事業が始まる前から行われていましたので継続して行われています。その他に、PTAの活動以外の金魚の水槽の掃除や清掃の見守り等先生方の要望に応じた活動をしています。学校からの要望は平日の活動が多いので、平日に時間のとれる人（活動できる人）の情報を集めています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：学校内にボランティアルームがあり、先生方や地域の人たちと気軽に情報交換ができ、恵まれた環境で活動をしています。また、子どもたちに顔を覚えてもらい、いつでも明るい笑顔とあいさつをもらっています。

担当者：普段から多くの方（地域）が学校に入り、事業が展開されています。特におやじの



会などは元PTAだった方々などの参加が多く、体育祭や文化祭などで活躍しています。学校からの依頼は多種多様ですので、コーディネーターは大変だと思いますが、持ち前のバイタリティで人をひきつけていると思います。

わが校の主な活動

【1】金魚の水槽の清掃

ある時、学校に金魚が寄贈され、その時から金魚の世話は教頭先生が行っていました。普段は忙しいので金魚の水槽の掃除は休みの日に半日かけてやっていたそうです。それは大変と地域の数人が教頭先生のかわりに金魚の水槽の掃除を買ってでました。地域の方は、こんなに大変なことを先生は一人でやっていたのかと感じ、教頭先生はボランティアに感謝し、業務に専念することができました。



【2】掃除の見守りボランティア

校舎の汚れが目立つようになっていました。どうも子どもたちの掃除の仕方ができていないようです。地域の人にとりどころに立ってもらい、掃除の仕方がうまくいかないところを指導してもらおうと考えました。雑巾の使い方から箒のかけ方など子どもたちは楽しく学びました。以前よりも学校の空気が澄んだように感じます。今後も夏休み、冬休み、春休み前の大掃除として継続して活動したいと考えています。



得られた成果

- ・ボランティア活動によって、郷土芸能など子どもたちが学べるが増え、地域の方々と接する時間が増えることによって、子どもたちの態度に変化がみられました。（あいさつや規律の面が以前より良くなりました。）
- ・先生方は少しですが、時間に余裕ができたのかなと思います。
- ・ボランティアの人たちは、先生方や子どもたちから感謝の言葉をかけてもらい、やりがいを感じています。また、情報交換もでき、楽しく活動をしています。

今後の課題と展望

ボランティアに参加してくれるのはいつも同じ人たちですので、もっと多くの人たちに関わってもらえるようコーディネートしたいと思います。

周知の仕方の工夫といつでも集える場所づくりをしようと考えています。

学校側からもっといろいろな要望を出してもらえるように、先生方に働きかけたいと思います。



足をつないで駆け抜けよう！

～子どものために福田小学校の取組～



南部町福地地区学校支援地域本部 担当者:中村 貞雄/福田小学校 コーディネーター:工藤 浩二・土岐 靖子

学校や地域の概要

福田小学校は、昭和59年に3校を統合し開校しました。「学校の宝もの」及び「自分の宝もの」づくりを推進しています。平成16年にはNHK全国俳句大会で学校奨励賞を受賞、日本学童野球青森県大会で優勝、近年では、クラス対抗30人31脚青森県大会で優勝の成績を収めるなど様々な分野で活躍しています。

わが校のボランティア活動

- ・図書室の本の整理をしました。
- ・新刊にカバーかけをしました。
- ・表紙や本の破れなどをテープで修復しました。
- ・図書のデータベース作りの作業をしています。
- ・4年生の総合の時間に「さつまいもの蒸パンづくり」のお手伝いをしました。

コーディネートの実際

毎週、月・木曜日に図書室で作業しながら先生方の依頼を待っています。

福地地区のコーディネーターが手伝いに来てくれています。お互いに行き来きして活動しています。

前期は予定どおりとはいかず、後期に見送られた依頼がありました。(5年生から裁縫の指導、6年生からミシンの使う時のお手伝い、プリントの丸付け、音楽の時間のピアノ伴奏などです。)

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター: ボランティアを募集したところ「仕事が休みだからいいですよ」と来てくれた方がいて、うれしかったです。協力してくれる人の輪を少しずつ広げていって多くの方が関わりを持ち、お互いに誘い合えるような活動にしたいです。

担当者: 福田小学校は、以前より地域との関わりが深い学校です。特に読書活動においては地域の読書団体の協力により、図書室の本の整理や配置換え、読み聞かせ活動などが行われています。これらの活動をもとに、ますます活動が活性化されるよう体制づくりが求められています。



わが校の主な活動

【1】本のカバーかけ作業

福田小学校では地域の読書団体が定期的に読み聞かせを行っているなど読書活動が盛んに行われています。以前には本の配置や本棚の移動など読書団体の協力を得て行われました。

今回は本を大切に扱って欲しいため、カバーかけの作業を行いました。講習会を行い、読書団体の方々の指導を受け、ボランティアがカバーかけの技術を習得。最初はぎこちない感じでしたが、慣れてくると手元もしっかり、きれいに仕上がりました。

【2】図書のデータベースづくり

蔵書の増加に伴い、図書の管理が難しくなってきました。パソコンに強い先生がいるため、指導を受け、図書のデータベースづくりを行っています。



得られた成果

人気のある本は、常に貸し出されているため、痛みが早いようです。カバーをかけたため、気持ち良く使ってもらえると思います。今まで以上に本を大切にしてくれているようで、やって良かったと思いました。最初は難しい作業かなと思っていたのですが、思ったより簡単な作業でボランティアにも負担がかからずできました。図書のデータベースづくりは曜日と時間をお知らせして、PTAの方が来られる時間に代わる代わる来てくれています。ボランティアの方々は、またやりたいということでした。

今後の課題と展望

学校からの依頼で校門脇にある松の木の剪定を受けましたが、専門家に下見をしてもらったところ、素人では難しいと言われました。それに費用もかかるそうです。できることとできないことがあることを認識しました。

現在、図書のデータベースづくりが中心となって、活動しています。完成したら他校でも取り上げられるように仕上げたいです。同じ人ばかりに頼らず多くの人に知ってもらい、手伝ってもらえるように働きかけていきたいです。



あなたもわたしもこの指とまれ！

～地域といっしょの杉沢小学校の取組～



南部町福地地区学校支援地域本部 担当者：中村 貞雄／杉沢小学校 コーディネーター：初森 和子

学校や地域の概要

杉沢小学校は、全校一丸となって「すすんで学習、きれいな校舎、さわやかなあいさつ、話と和で広がる杉沢小」を目指しています。平成17年4月に児童や地区子ども会育成会により、全校児童数にちなんで百匹のこいのぼりが校庭に掲げられました。地区内はもちろん、青森市やむつ市、川内町などからもこいのぼりの寄付を受け実現したもので、現在も引き継がれています。学校行事はPTAや地域の協力のもとに行われています。

わが校のボランティア活動

- ・お茶を学ぶ（6年生）
- ・よさこいソーラン（3年生～4年生）
- ・そばづくり（3年生～4年生）〔種まき⇒そば刈⇒脱穀⇒そば打ち⇒試食〕

コーディネートの実際

- ・先生からの依頼を受け打合せを行う。
- ・地域（学区）から指導者を探す。
- ・福地地区コーディネーターと内容を協議する。
- ・指導者とボランティアが話し合い内容を確認し、学校と協議する。
- ・事業を実施する。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：ボランティアを引き受けてくれる人がなかなか見つかりません。（地域の方々にまだこの事業をよくわかってもらえていないので、PTA、地域に伝わっておらず人探しが大変でした）今後、地域の人たちに手助けをしてもらえるような情報を通信などを利用して積極的に発信したいと考えています。

担当者：福地地区のコーディネーターは、お互いに情報交換をしながら助け合って活動をしているようです。指導をしてくれる方を探すことやボランティアを頼むことは大変なことですが、楽しんで行っているようです。事業を実施していく中でボランティアの輪を広げていきましょう。



わが校の主な活動

◇そばづくり

総合学習の一環で、昔盛んに栽培されていたそばの栽培を体験してみようということになりました。そこで、そばづくりを教えてくれる人はどこにいる？畑はどうする、種は？ということまでてんでこ舞い。ひとつずつ解決していこう。近所のおじいさんとおばあさんが作り方を知っているというので先生になってもらうことに。畑は保護者の方が快く提供してくれました。地域の方がトラクタをかけ種まきの準備をしてくれました。多くの地域の方の支えによりそばづくりは始まりました。収穫が楽しみです。どんな笑顔に会えるのだろうか。白い小さな花が咲き、9月の中旬には実がつき、収穫間近になるとスズメやハトがおいしそうに実を食べていました。これはマズイということで“かかし”作りも体験。おかげで全滅は免れました。



いよいよ収穫。すっかりカラカラに乾燥し、あとは脱穀するだけ。パラパラとこぼれるそばの実に子どもたちが驚きます。三角で黒くて硬い。でも一番の興味は食すること。腹減った、早く食べたい。しかし、すぐには食べられない。もう一手間かからないと食べられないと大人から聞く。でもきっとこれだけ手をかけたのだから美味しくないとはいえないよね。

得られた成果

学校にとっては、できないことが可能になるというか、かゆいところに手が届くというか、願ったり叶ったりのような気がします。地域の方にとっては地域の学校のために役に立つということで満足感があるようです。

「子どもたちのために」というキーワードは学校と地域を結ぶ言葉だと感じました。それを結ぶコーディネーターという役割は言葉では表せない感じがします。

今後の課題と展望

今年度から始まったばかりの事業ですが、コーディネーターがつとまるのか不安です。一人で悩むことなく、福地地区のコーディネーターとともにチームを組んで課題解決、事業の実施にあたりたいと思います。これからの活動がとても楽しみです。



体験が子どもたちに自信をつける！

～彩り鮮やか福地中学校の活動～



南部町福地地区学校支援地域本部 担当者:中村 貞雄/福地中学校 コーディネーター:滝田 人女

学校や地域の概要

福地中学校は、昭和34年、2校の統合により開校しました。部活動が盛んでスポーツではバレーボールや陸上競技、文化・芸術では吹奏楽、各種美術展、英語スピーチコンテストなどにおいて優秀な成績を取っており、文武ともにめざましい活躍を遂げています。

わが校のボランティア活動

- ・2年生の花壇作りのお手伝いをしました。
- ・夏休みに学区内（苫米地地区）のゴミ拾い清掃活動をしました。
- ・図書室の本の整理と新刊のブックカバー貼りをしました。
- ・おはなしの会の指導を地域のおはなし会グループの皆さんに指導していただきました。
- ・ギターの指導をしていただきました。
- ・七夕飾りの指導をしていただきました。
- ・クリスマスリース作りの指導をしていただきました。

コーディネートの実際

- ・学校からの依頼を受けてから活動しています。
- ・チラシを作成し、主に保護者に向けて配布をしています。
- ・活動にあたって参加人数が少ない場合には、地域の方に声をかけたり福地地区のコーディネーターの方々と協力しあって活動しています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：学校の担当の先生が、学校支援地域本部事業の趣旨をよく理解している方なのでコーディネーターとして動きやすいです。学校の依頼がまだまだ少ないので、気軽に声をかけてもらえるように工夫します。依頼があった際には実現できるように努めます。

担当者：コーディネーターと学校との連絡調整がうまく取れているようです。先生方の興味をコーディネーターが上手に引き出していると感じます。今後は、保護者を含む地域への呼びかけの方法を見出していくことを期待します。



わが校の主な活動

【1】花壇づくり

学校の前の花壇に花を植えようということになりました。地域の愛好者（元農業高校の教諭）から指導を受け、生徒たちがそれぞれのテーマにより花壇のデザインに臨みました。背が高くなるものや色あいを考えてイメージにあった花壇の設計図を描いていき、それを元に花壇へ植え付けました。



植え付けには、募集により集まったボランティアの協力も。地域の方との会話も弾み2時間程で完成。立派な花壇ができました。色とりどりの見事な花が今年の夏を彩りました。

【2】おはなし会の指導

町内の学校では読み聞かせなどのおはなし会が盛んに行われています。この読み聞かせを生徒たちができないものだろうか。中学生にも読み聞かせを体験してもらい、小学生以下の子どもたちに聞いてもらいたい、ということで、地域の読書団体の方々をお招きして読み聞かせのノウハウを勉強しました。読み聞かせ本番が楽しみです。



得られた成果

- ・学校へ行くことによって普段の子どもたちの様子を見ることができました。子どもたちのあいさつに元気づけられています。子どもたちの視線がやわらかくなってきたと感じています。
- ・先生方と接する機会が増えたことで、会話がしやすくなりました。
- ・参加してくれるボランティアさんとの新しい出会いや発見があるので、一緒に楽しみながら活動できました。
- ・学校にとっては、今まで手の届かない部分があり、それに手をつけることができた感じがします。
- ・地域の方々の学校への理解度が増してきました。

今後の課題と展望

学校と密に連絡を取り合い、依頼されやすい関係づくりをしたいと思います。常に情報アンテナを動かし、学校の依頼に応えられるようにしていきたいです。子どもたちのために少しでもボランティアをしてくださる方々と先生方の活動をサポートしていくことが出来ればと思います。福地地区はコーディネーターが協力し合って活動しているのでお互いに情報交換をし、地域ぐるみの活動を続けていければと考えています。



できることから、できる人が！

～木の香がかおる杉沢中学校の活動～



南部町福地地区学校支援地域本部 担当者：中村 貞雄／杉沢中学校 コーディネーター：是川 民子

学校や地域の概要

杉沢中学校は木の香がたっぷりの木造校舎です。道路沿いに立つ桜の木は、P T Aの方々により四季を通じて手入れがなされ、春には満開の桜を、冬にはライトアップされた景色を楽しむことができます。

地域が学校へ寄せる期待は大きく、小学校P T Aとの連携をはじめ、「地域ぐるみの活動」が活発に行われています。

わが校のボランティア活動

- ・ 集団演技の指導（毎年恒例になっている全校のマスゲーム）
- ・ よさこいソーランの指導（福地地区で活動しているよさこいソーランのチームの方を招いて指導してもらいました）
- ・ 図書室の本の整理（台帳調べなど古い本を整理しました）
- ・ ブックカバーかけ（今年購入した本を中心にブックカバーをかけました）

コーディネートの実際

- ・ 学校からの依頼がありました。
- ・ 福地地区のコーディネーターに相談し、協力を得ました。
- ・ 内容を確認し、チラシを作ってボランティアを募集しました。
- ・ なかなか集まらないので直接声かけをしました。
- ・ 集まったボランティアで図書台帳の整理をしました。
- ・ いらぬ本をまとめました。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：P T Aの方は働いている人が多く、なかなかボランティアに参加できません。少ない人数なので作業にとっても時間がかかりました。P T Aの方だけではなく広く地域に目をやり、多くの方の参加を促し、活動を盛んにしていきたいと思っています。

担当者：杉沢地区は小学校と中学校が共同で様々な活動をしています。すでに活動母体ができているようです。事業の周知がまだまだ出ていないので活動はこれからという



感じですが、すぐに地域の特徴を活かした活動が始まるものと思います。

わが校の主な活動

◇図書整理

杉沢中学校の図書は読み手が手に取りやすいように配架が工夫されています。さらに先生が、「あなたにはこの本がいいよ、読んでみたら」とアドバイスをしてくれるそうです。「本の活用が盛んなため、本の痛みも早い。」ということで、本の整理とブックカバーかけの依頼がありました。

何から手をつけたらよいのか困ったので同じ福地地区のコーディネーターに相談をし、一緒に活動してもらうことにしました。まずはボランティアを募集しましたが思うように集まりませんでした。予定通り、図書の整理活動をしました。

図書の整理をしてみると廃棄する必要がある本が数多く出てきました。数回に分けて参加してくれた人の車で運び出しました。図書室がきれいにすっきりとした感じになり、生徒たちもますます読書に親しむことができると思います。さらにブックカバーをかける作業を引き続き行いました。



得られた成果

- ・ いらない本を処分することによって、本棚が空きすべての本が見やすく選びやすくなりました。図書室がすっきりしたと思います。
- ・ 保護者にボランティアを呼びかけたところ、快く引き受けていただきました。ありがとうございました。
- ・ 学校に地域の人が入ると子どもたちの雰囲気が普段と違うような気がします。地域の方は子どもたちを温かい目で見えています。子どもたちには良い意味での緊張感が感じられます。

今後の課題と展望

最初、ボランティアを募集してもなかなか集まりませんでした。学校やPTAに協力してもらい、保護者に参加を呼びかけてもらうなど、周知と募集の仕組みをつくっていかうと思います。

また、この地区は小学校と連携をしていろんな事業をしているので、そちらにも声をかけてみたいと思います。

